

第7回 岳北地域の高校の将来像を考える協議会資料

第6回協議会意見を踏まえ【課題整理】

第6回では、A案・B案についてシミュレーションを示し議論をいただきました。第7回では、今までの意見を踏まえて一案にしぼり、県教育委員会へ意見要望をまとめる必要があるということで、以下について協議をいただきます。

第7回協議会

A案・B案についてメリット・デメリットを示し意見・要望を一案にしなが
ら県への意見・要望概要について今までの内容を整理し協議するものです。

県教育委員会への意見要望概要

教育施設

1 現農林高校の教育施設を将来に渡って地域に残す

教育内容

2 岳北地域の産業を担う人材育成のための教育の充実

1 教育施設

現農林高校の教育施設を将来に渡って地域に残すため、下高井農林高校を飯山高校の地域キャンパス化することで意見・要望をする。

2 教育内容

岳北地域の産業を担う人材育成のため、農林高校のカリキュラム再編を中心に意見・要望する。

- ① 3年間で「素材作り」から「調理・加工」「販売・提供」までできる一貫した人材育成のためのカリキュラムを構築する。
- ② 『専攻科』を新たに設け、4年目に地域生産者への実習や必要な資格取得のための講習など、卒業後の実践につながるカリキュラムの構築をする。なお、専攻科は生徒だけでなく、就農希望者等も含めた社会人の学びの場としての活用も考える。

上記の2教育内容充実のため以下の点について要望する。

- ① 米・野菜等「素材作り」のための機械・施設の整備・充実
- ② 「調理・加工」「販売・提供」のための施設整備
- ③ 『専攻科』設置に必要な人的整備や機械整備等
- ④ 高校教育を進めるうえで必要な環境の確保

(養護教員・学校司書配置・通学方法の確保等)

基本事項

個別事項

詳細事項

統合による2キャンパス化（A案）と地域キャンパス化（B案）のメリット・デメリット

統合による2キャンパス化(A案)

メリット	デメリット
● 学校として一体的な教育が可能となる。 ● 普通教育の教員確保は出来る ● 部活動等が合同で実施可能となる。	● 「飯山高校キャンパス」で座学を学び、実習時は「農林キャンパス」へ移動する必要があるため生徒の負担が大きく、何回も往復することはカリキュラムの編成が難しくなる。 ● 農業科（仮称）が他学科とのバランスによっては募集停止となる可能性がある。 ● 農林業実務教員の確保や圃場等教育施設の管理が出来なくなる可能性が高い。 ● 中学卒業生にとって多様な教育の場の選択が出来なくなる可能性がある。

地域キャンパス化(B案)

メリット	デメリット
● 農業高校として充実した運営ができる。 ● 移動の負担がなく、独自のカリキュラムを組むことが可能となる。 ● 在籍生徒数が60人を下回らない限り、キャンパスとして存続することが出来る。 ● 農林業実務教員の確保や圃場等教育施設の管理が可能。 ● 中学卒業生にとって、多様な教育の場の選択が可能となる。	● クラブ活動等が少人数のため十分出来ない。 (両校の連携により可能となることも考えられる) ● 少人数のため職員の減少により、普通教科等が本校と兼務等となり、普通教科への影響が考えられる。 (新たなカリキュラム構築をして、魅力ある学校づくりにより影響を抑えられる可能性はある。)